

貸切バスの拠点に、乾燥・下部洗浄付きの大型洗車機。
ドライバーの疲労軽減を図り、より安全・安心な運行を目指す

東栄運輸株式会社様

本社 埼玉県さいたま市岩槻区長宮77
設立 1967年9月
売上高 26億2,533万円(2019年6月期)
バス営業拠点 埼玉、東京、神奈川の3カ所
バス保有台数 大型33、中型5、小型2の計40台



首都圏で貸切バス事業を営んでいる東栄運輸株式会社様(本社:さいたま市岩槻区)は2019年3月、ドライバーの労働環境を改善するため、本社すぐそばにある「さいたま第2営業所」(同市)に、乾燥装置と下部洗浄装置を備えた大型洗車機

「**カミオン カスタム**」を導入しました。これにより、ドライバーの作業負荷を大幅に軽減するとともに、下部洗浄により冬場、道路に散布される融雪剤を洗い流すことで、車両のシャーシやトランクルームなどの錆防止にも役立てています。

洗浄はわずか4分に短縮、乾燥装置により拭き上げ作業も15分で終了



大型洗車機「カミオン カスタム」。リヤ部も強力かつスピーディに洗浄できる。

同社では従来、バスの洗車については本社敷地内にあった1本ブラシの手動式洗車装置を行っていました。このため、洗車だけでも15~20分程度必要だった上、天井部分は洗うことができませんでした。また、同装置は水洗い洗車のみで洗浄性に課題があったことに加えて、乾燥機能もないので洗車後、水切りワイパーとタオルを使った拭き上げ作業に20~30分かかっていました。

大型洗車機の導入により、洗車にかかる時間はわずか4分程度と大幅短縮。さらに、シャンプー洗車で洗浄力を高めたことに加え、大型車専用の乾燥装置「Zプロ」により、水滴残りが減少。タオルだけで拭き上げが済むようになり、拭き上げ時間も15分程度に短縮しました。

「当社は日本バス協会が認定する安全性評価認定事業者(三ツ星)に認められるなど、日々安全運行に努めています。今回、洗車機を導入したのは、ドライバーの疲労軽減を図ることで、安全性を高めることが最大の目的です」(観光バス部 次長 原田 保志様)



POINT

- 1本ブラシ装置では難しかった天井部分を洗浄
- 水滴残りが減少したことで水切りワイパーが不要に
- シャンプー、コーティングにも対応



観光バス部 次長 原田 保志様。

下部洗浄でシャーシやトランクなどの錆防止にも活用

大型洗車機では、洗浄、乾燥に加えて、撥水コーティング「DUコート」を掛けることが可能。ボディならびにガラスの撥水効果を高めるとともに、ドライバーは手掛けワックスの作業から解放されました。さらに、洗車機設置スペース内の土間にピットを掘って固定ノズルの配管を埋設した下部洗浄装置を導入。シャーシなど洗いにくいバス底面の洗浄も進入時に簡単に実現するようになりました。

「冬季、スキー場などへの送迎では、融雪剤に含まれる塩化カルシウムで車が真っ白になることがあるのですが、コーティング効果で汚れが落ちやすくなりました。また、塩化カルシウムで車両のシャーシやトランクの扉の下側が錆びることが問題になっていましたが、下部洗浄装置により今後、状況が改善することを期待しています」(原田様)

同社では2019年11月に、洗車機のブラシを化織タイプからスポンジタイプへ切り替えることで、よりソフトに洗えるようになりました。また、洗浄中のブラシ音と水の飛散を軽減しました。



土間固定式の下部洗浄装置。高圧水で底面の汚れを洗い落す。



スポンジブラシでソフトにブラッシング。ブラシ音で水の飛散も軽減。



バスから降車し操作しやすいよう、操作パネルは左側に配置。

COLUMN

乾燥装置で、作業負荷をさらに軽減、水滴あとも低減

5.5kW×2基の大容量ブロワーと、170mmの大口径スポットノズルを搭載した大型車専用の乾燥装置「Zプロ」。サイドガラスの水滴を強力に吹き飛ばすことで、作業負荷をさらに軽減できるうえ、水滴あと(ウォータースポット)も低減します。風量が強いので、フロント、リヤガラスの水滴残りも少なくできます。冬場は、ガラスについていた朝霧の乾燥にも適しています。



大口径ブロワーにより、広範囲に安定して風を送ることが可能。